



いよいよ梅雨明け、夏本番です。「夏のお出かけ」、言葉はステキですが暑すぎます。
冷房の効いた室内で読書をしましょう。アイスコヒーと本、ステキです。
教育ライブラリーには、たくさんの教育図書、研究紀要・論文、教育雑誌、視聴覚資料などがあります。
研究や研修にぜひお役立てください。教育ライブラリーでは、閲覧はもちろん貸出もできます。
基本的に土曜日も利用できます。開館予定日は当ホームページでご確認ください。

書籍紹介

①「学力喪失 認知科学による回復への道筋」

今井むつみ/著

(岩波新書 2024年発行)

著者は、2024年に新書大賞となり現在もベストセラーを続ける『言語の本質』を著した認知科学、発達心理学の専門家です。人間はもともと学ぶ力をもっており、特に乳幼児期にはその驚異的な力で母国語という複雑な言語体系を習得するのに、就学後、多くの子どもが学力不振に陥り、学ぶ意欲を失ってしまうのはなぜか。その原因を認知科学の視点から探っていくと「記号接地」の問題が明らかになっていきます。「記号接地」とはこの場合、知識を具体的な生活経験やイメージと結びつけながら抽象化し習得すること。著者によるとAIは言葉（記号）を統計的に処理しているだけであって、その意味を人間のように理解しているわけではありません。つまり記号接地していないのです。同じように、算数の文章題が解けない子どもは、例えば分数の計算はできても、その意味を実感をもって理解できていないので応用できません。記号接地していないので「生きた知識」になっていない。では「生きた知識」はどのようにすれば習得できるのでしょうか。子どもが知識を習得するうえで遊びや探究的な学習が、この意味でも有効であることが著者の説明で分かってきます。また著者はAIの「無防備な活用」に警鐘を鳴らしています。人間の学びとは何かを考えさせてくれる本です。

②「ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力」

帚木蓬生/著

(朝日新聞出版 2023年発行)

「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉を耳にする機会が増えてきました。直訳すると負の能力ということになりますが、本書では、「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」あるいは「性急に証明や理由を求めずに、不確実さや不思議さ、懐疑の中にいることができる能力」と説明されています。

情報過多による不確実性、技術革新による絶え間ない変化、災害、経済、国際情勢の先行きの見えにくい現代社会……。本書は、そのような時代を生きる私たちの不安に静かに寄り添い新たな視点を与えてくれます。

特に、第9章 教育とネガティブ・ケイパビリティ、第10章 寛容とネガティブ・ケイパビリティは、教育に携わる方や子育てに関わっている方にぜひ読んでいただきたい内容です。「分かること」や到達目標を重視する学校教育と、「たしなみ」「素養」としての教育を対比しながら

ら、教育の本質に迫っています。その簡潔で力強い表現には、思わず深くうなずかされます。また、不登校や生きづらさを抱える子どもたちの心情についても、ネガティブ・ケイパビリティの視点から丁寧に語られており、多くの示唆を与えてくれます。

ぜひ、「寛容」「共感」「親切」という言葉の意味をゆっくりと味わいながら、答えを急がずに読んでみてください。教育の在り方や、人と向き合う姿勢を改めて問い直すきっかけになる一冊です。

雑誌紹介

雑誌名	号	特集等（抜粋）
国語教育 (明治図書)	7月号	【特集】国語の自己調整学習 実装ガイド ◇押さえたい「自己調整学習」の理論と方法 ◇見通すフェーズの自己調整学習&方略 ◇実行するフェーズの自己調整学習&方略 ◇振り返るフェーズの自己調整学習&方略
社会科教育 (明治図書)	7月号	【特集】情報活用能力を高める！質の高い探究的な学びデザイン ◇社会科・地理歴史科・公民科における探究学習とその類型 ◇情報活用能力を構成する3要素と授業への導入ポイント ◇情報活用能力を高める！質の高い探究的な学び 成功の秘訣 <地理>地理的技能としての情報活用能力の育成 ～高等学校「地理総合」を念頭に～ <歴史>知識の概念化と転移・活用を中核にして <公民>目標に即した情報活用のねらいの設定 ◇学びの質を高める！探究学習や裁量的な時間の余白創出 教える内容の精選ポイント ◇授業最前線 学習活動モデル 小学校 中学校 高等学校
数学教育 (明治図書)	7月号	【特集】難所攻略！「指導と評価の一体化」 ◇知識の概念的な理解をどう図り、評価するか ◇思考・判断・表現の授業課題を評価問題とどうつなげるか ◇主体的に学習に取り組む態度の評価の煩雑化をどう防ぐか ◇指導に生かす評価と記録に残す評価のバランスをどう取るか ◇学年を跨ぐつまづきをどう見取り、学び直すか ◇探究的な学びをどう評価するか
理科の教育 (東洋館出版社)	7月号	【特集】理科の目標の枠組を超えた成長が期待できる授業とは ◇人間形成において理科教育が果たす役割とは ・理科教育の発達支持的生徒指導促進効果 授業における「感動・発見・挑戦・創造体験」の重要性 ・教師主導型授業からの転換に関する一考察 理科における探究的学習と授業形態の視点から ◇理科の目標達成を超えた成長が見られた授業実践 (小学校) 生命の誕生の学習における人間形成に迫る授業 他 (中学校) 地域の自然を起点とした「自分の問い」と社会への接続 他 (高校) 高校生が成長したことを実感できる探究的な学びの実践 他

英語教育 (大修館書店)	7月号	【特集1】中学校でも生きる小学校での英語の学び ◇小学校から中学校以降へ：英語の学びを円滑に ◇小学校外国語における見方・考え方を働かせる指導の在り方 ◇「読み」「書き」が動き出す文通活動“Secret Friend” ◇公立小学校3年生から無理なく実施できる国内オンライン交流の実践 ◇同一学区内での小中連携の実践：小学校英語専科からの提言 ◇70年ぶりのローマ字改訂が英語教育に与える影響 ◇小・中・高でつなぐ英語のバトン 【特集2】研究と実践の相乗効果 現職教員の大学院での学び ◇経験が学びの足がかりに、学びが新たな経験を豊かに ◇学び直しから広がった世界：現職教員としての大学院生活 ◇大学院での学びと自己変容
道徳教育 (明治図書)	7月号	【特集】子ども主体の話し合いができるようにする方法 ◇「教師対子ども」だけの話し合いから抜け出すためのチェックリスト ◇スペシャリストは、子ども主体の話し合いを実現するために何をしているのか ◇ステップ順でわかる！子ども主体の話し合いができるまでのロードマップ ◇「教師対子ども」→「子ども対子ども」の話し合いにする手だて ◇主体的な話し合いに導く5つの技法 ◇話し合いが主体的にならない！リアルな悩み解決します ◇学習リーダー（子ども）が授業する道徳授業 ◇教師のためのファシリテーションスキルの高め方
授業力&学級経営 力 (明治図書)	7月号	【特集】一斉授業と個別学習、どう使い分ける？ ◇授業名人に聞く 一斉授業と個別学習 ◇学年や時期で変わる？一斉授業と個別学習 ◇1単元での一斉授業と個別学習の使い分け ◇この場面、一斉授業と個別学習をどう使い分けていますか？ ◇テストや入試がある中学校ではどうする？ ◇一斉授業中でもできる「個」を見取る方法 ◇一斉授業、個別学習の困った場面、どう対応しますか？ ◇多様な子を包摂する一斉授業・個別学習の境界線 【連載】◇Canva Code 自分のクラス専用のアプリ ◇発達支援の専門家に学ぶ 分からないと固まってしまう子
生徒指導 (学事出版)	7月号	【特集】急募 ICTとかAIってどう使えばいいの？ ◇中学校・高校でのICT・AI活用と生徒指導 ◇生徒指導にICT・生成AIをどう生かすか ◇メタバース空間を通した不登校支援プログラム 「room-K」のレジリエンスの育み方 ◇子どもを対象としたSNS相談 ◇入門として、まず一歩踏み出すために 【インタビュー】発達の特性・個性を力に（下） 配慮にとどまらず、学びと体験を届ける/伊庭葉子

		【連載】◇地域での不登校児童生徒支援 ◇えざわ先生の教師を楽しむ仕事術 授業を見合う文化をつくるには
教職研修 (教育開発研究所)	7月号	【特集1】サキドリ研究校を追い！あの学校の教育課程の「意図」を探る ◇京都市立桂小学校 40分授業午前5時間制で子どもにも教職員にもゆとりを ◇横浜市立義務教育学校緑園学園 ミドルリーダーのボトムアップで授業改善を推進 ◇京都府宇治市立広野中学校 生徒による、よりよい学校づくりを目指して ◇アンケートで読み解く！サキドリ研究校 【特集2】「社会モデル」の学校 次期学習指導要領改訂の前提を知ろう ◇社会モデルを土台とした学校とは？ ◇社会モデルを学んだら？ ◇「社会モデルの学校」をどうつくる？ ◇学校の「当たり前」と向き合ってみよう 【連載】◇疑似体験 学校対応のリアル 熱中症事故 ◇固まる仕組みの何処に油をさすのか カリマネは動き出す
初等教育資料 (東洋館出版社)	7月号	【特集】改訂に向けた検討事項と、今、大切にしたい取組④ 〔家庭、体育、特別の教科 道徳〕 ◇改訂に向けた議論・方向性についての周知 ◇現行学習指導要領の更なる趣旨の徹底と実現 論説と事例
中等教育資料 (学事出版)	7月号	【特集】学習指導要領改訂に向けて 各教科等別ワーキンググループにおける審議状況④ ◇体育・保健体育、健康、安全 WG における審議状況 ◇家庭 WG における審議状況 ◇学習指導要領改訂に向けて道徳 WG における審議状況
学習情報研究 (学習情報研究センター)	7月号	【特集】特別支援教育における ICT 活用 ◇発達・学習を育みウェルビーイングを実現する ICT 活用 ◇知的障害教育における ICT 活用の現在地 ◇知的障害特別支援学校における画像生成 AI を活用した「対話」 ◇ICT が支える病弱児の教育保障 ◇ストレス対処のアプリ制作 ◇特別支援学級におけるロボットの活用 【特集】情報モラル・メディアリテラシー教育 ◇生成 AI 時代における組織的授業づくり ◇言葉を映す「鏡」としての ICT ◇人工知能の『学習』を通して、人工知能と人間との関わり方を考える ◇メディア・リテラシー教育における批判的思考と実践事例の検討
実践みんなの特別 支援教育 (Gakken)	7月号	【特集】ブレーキポイントモデルで考える 学校ができる支援への橋渡し ◇学校における支援の「ブレーキポイントモデル」 子どもや保護者が支援につながるときの「ブレーキ」と「解除の手立て」 ◇学校内支援につながるまでのブレーキ ◇医療機関につながるまで・受診後のブレーキ

		◇福祉サービス・民間療育機関につなぐときのブレーキ 【連載】◇合理的配慮はズルい？クラスへの説明 ◇思春期の子どもを支える中学校通級 フツウを装う子どもたち ◇個別最適な英語学習 ◇あなたに寄り添う伴走型相談所 ◇ついつい話したくなるコミュニケーションの種
特別支援教育研究 (東洋館出版社)	7月号	【特集】LDを見逃さない 気づきから支援へ ◇LDのある子供の気付きと指導・支援の充実を図る ◇読み書きに困難のある子どもの見取りと実践 ◇算数の学習に困難のある子どもの見取りと実践 ◇LDのある子どもたちの学びへのアクセスとICT ◇子どもの思いや願いを踏まえた合理的配慮の在り方 ◇通常の学級で「学びにくさ」を抱える子どもの授業参加を支えるために
学校図書館 (全国学校図書館 推進協議会)	6月号	【特集】教科の授業で学校図書館を活用 ―実践例を中心に― ◇教科等における学校図書館活用を進めよう ◇学びを深める 学校図書館を活用して <小学校の実践> ◇学校図書館を活用した特別支援教育における学習支援の工夫 ◇学校図書館は、発想を広げる創造の場 ◇学校図書館を、教科を横断した学びの場として活用する ◇本との出会いを学びにつなぐ学校図書館の活用 【案内】第45回全国学校図書館研究大会札幌大会 【報告】第31回「日本絵本賞」選考報告
高校教育 (学事出版)	7月号	【特集】「柔軟な教育課程」をどうつくるか？ ◇「柔軟な教育課程」のねらいと高校に期待される教育課程編成 ◇文理融合型探究活動のカリキュラム 滋賀県立彦根東高等学校の取組 ◇探究を軸とした教育課程再構成の条件 ◇新指導要領について押さえておきたい論点 【インタビュー】「自分の好きなこと」を仕事にするには？/宮田珠己 【連載】◇「探究」を探究する 探究が教室を超え、社会を動かす ◇時の眼 学習時間減少の原因 宿題の減少と学習意欲の低下 ◇教育と法 いじめ自殺訴訟と制度上の課題
学校事務 (学事出版)	7月号	【特集】「働き方改革」に事務職員がどう参画するか ◇学校事務職員の視点・意見と参画は、なぜ大切なのか ◇「学校と教師の業務の3分類」に基づく適切な業務分担に関する調査結果から見えること ◇学校の働き方改革と学校事務職員の参画 豊中市の実践から考える条件整備 ◇「働き方改革」に対しての自分なりの考え・考察 【連載】◇学校事務ICT時短術 窓口での領収書発行システム ◇学校の日常とお金Ⅲ ちょっと「気になる家庭」と「気になる子」 ◇「柳澤式」実践と理論 学校財務の情報を発信しよう ◇今月の書評『学校を休んだ日は本をひらいて』『文体のひみつ』 ◇「特別支援教育」入門 事務だからできる“見えやすい”改善を

		◇実践のススメ 異校種であることを生かした学校間連携 ◇全国の事務職員の時間外勤務と有給休暇取得の状況が明らかに
指導と評価 (日本教育評価研 究会)	季刊	【特集1】教科の本質と見方・考え方 ◇なぜ、学校で教科を学ぶのか ◇新時代のリテラシーと国語科の役割 ◇社会科学習を活性化するツールとしての「見方・考え方」 ◇社会の変化を踏まえた算数・数学の本質と数学的な見方・考え方 ◇これからの理科教育はどう変わるか ◇図画工作科・美術科の本質と見方・考え方 ◇価値創造を担う情報・技術科の構造と指導・評価 ◇健康と豊かなスポーツライフの実現を見据えたこれからの学校体育 ◇「伝わらないもどかしさ」を受け止める 義務教育で外国語（英語）を学ぶ意義とは 【特集2】不確実な時代を生きる ◇不確実な時代を生きる、いまの子どもたちの現状と支援 ◇不確実な時代に、自殺せずに生き抜く子どもを育てる ◇白黒がつけられない「曖昧さ」を受け入れる ◇逆境に負けない生き方を支えるキャリア教育 ◇「深い非認知的思考」を育てる対話 ◇ハートとアートで子どもたちの未来を拓く 取手市の学校教育 ◇リーダーシップを発揮できる教員をどう育てるか